

村長選挙1月22日告示・27日投票即日開票

弥彦村小林村長(73歳)事務所開き

豊かな弥彦村を創る会 支持者110人集結、必勝誓う

『教育立村』を公約の第一に
何とんでも財政強靱化実現

役場の2階に図書館開設めざす
来年度にも

弥彦村の小林豊彦村長(73)の後援組織「豊かな弥彦村(やひこ)を創る会(武田芳久会長)」は二十四日午前十時から館内に建設した選挙事務所の事務所開きを行い、支持者約百人が集まるなか、小林村長はインドの宗教指導者サイババ氏の関係団体による村有地取得問題を引き合いに「サイババのとき、村民の皆さんが気持ちを一つにした。あの気持ちでやっていたければ弥彦村はもっと素晴らしい村、名実ともに日本一の村になる」と支援を訴えた。

任期満了に伴う弥彦村 柳田友徳氏(70) 弥彦 事務所の前ほど北側、県長選挙は来年一月二十二日告示、二十七日投票、即日開票が行われる。小林村長のほか、会社役員 選挙事務所は前回の事務所の百ほど北側、県道新瀧寺泊線沿線にブルハブを建設。事務所内には前回の選挙でも使った神棚をまつり、「さらに大事な選挙。他市町村も

前進!!」の書を飾った。この日は後援会役員、支持者のほか、来賓として、武石雅之弥彦村議会議員、花井温郎、柏木文一、男両村議が出席。板倉恵一村議はメッセージを寄せた。来賓祝辞では、武石議長は「この勢いを最後まで続けて、弥彦村に小林村長ありと日本中に知れ渡る勢いで、皆さんから盛り上げていただきたい」。小林村長に対しては「非々の立場を取る花井氏も「反村長派でも一般の村民はやることはきちりやっていると評価している。皆さんも小林先生を推すことについては自



「弥彦村をもっと素晴らしい村、日本一の村にする」と訴える小林村長



あいさつする武田会長



祝辞を述べる花井村議(中央)、武石議長(右)、柏木村議(左)



百人人が参加した事務所開き



必勝を期して「がんばろう!」コール

りにわたって公約を説明した。

人口減対策では「弥彦は立地的に恵まれている。しかも観光地で環境がいい。東京で言うと鎌倉のような感覚。これを何とか使えないかと考えていたのが『非認知教育』。勉強だけでなく、人として一番大事なことを教える教育。幼児の時代にすることが大きなこと」として教育立村を公約の第一に掲げた。

就任後、保育園の教育課への移管など保、小、中の連携を強化していることを紹介し、「弥彦はそういう教育ができる村。小さいだけにその成果をつまみ発揮できる、早く発揮できる。そういう村で学校教育がよくな

ればお母さんたちが弥彦村に来てくれる」と述べた。

村財政についてはふるさと納税、ミッドナイト競輪の好調で比較的安定しているが、「財政に余裕があるうちに無駄を省いて足腰を強くしないと財政強化を何としても実現したい。弥彦村はそうきを絞って何も出ない村ではない」とした。

農業では試験的に栽培した枝豆「肴（さかな）」が好評だったため、農林水産省のパイロット事業に申請することを報告。観光では弥彦菊まつり期間中、「おもてなし広場」周辺の飲食店に行列ができたことを紹介し、「農業も観光もつかれば、若い人たちが戻ってきてくれる。戻ってきて仕事をしてくれれば

活気が出て、人口も増える」と訴えた。

高齢者対策では健康長寿のためには読書が効果的というところから、役場二階の倉庫を活用して図書館をつくる計画を発表。「読書をする人は知的好奇心が旺盛。前向きの知的好奇心のある方は食事、睡眠もちゃんと読む習慣は幼児からつけるのが効果的だが、弥彦ではだいぶ前からやっている。問題はおとなになったとき。知的好奇心を養う場所がない。それが図書館。小、中学校

が統合したときと考えていたが、十年先なんて言っていられない」と述べ、来年度にも開設する考えを示した。

が統合したときと考えていたが、十年先なんて言っていられない」と述べ、来年度にも開設する考えを示した。

来年一月の村長選については「選挙は絶対行つ必要があるというのが私の信条。やらなければ肝心のことを村民の皆さんが知る機会がなくなる」との見解を示し、「選挙戦も厳しいと思うが、ひとえに皆さんの支持がなければとても無理なので、引き続き支援をお願いします」と訴えた。

最後は全員で「頑張る

う」コール。事務所開きは四十五分ほどで終わった。

村長選に向けて十一月中旬から各地区でミニ集会を開いており、来年一月十三日には農村環境改善センターで総決起大会を予定している。



百十人が参加した事務所開き